

令和3年10月吉日

蓄圧式（ブラダゴム内蔵）圧カタンク維持管理のお願い

各 位

山商エンジニアリング 株式会社
代表取締役 黒沢 茂

弊社製品をご利用頂き、厚く御礼申し上げます。

主題の製品は1985年に1号機を販売し今日に至っております。

ご使用されている中には、「供用開始より何も手を掛けていない」、などの

お声をホームページや電話でお聞きする事がございます。

製品には必要な気体が正しく保持されているのか、機能維持のため重要な

事項となります。

下記の封入圧チェック及び気体減少の際にはブラダゴム破損回避のためにも、

タンク銘板刻印の封入圧まで充填下さいます様お願い申し上げます。

記

製品機能維持のため圧力容器の封入圧は非常に重要な要素になり、弊社では最低半年に1回の封入圧測定及び減少していた際には気体の充填作業をお願いしております。

昨今、当該機種種の維持管理に際し、封入圧のご相談を受けることが多くなり、一例として車両のタイヤと同様に気体はゴム膜を透過して減少してしまうことを説明致しております。

しかし、供用開始より封入圧の測定をしたことが無いために、水撃緩衝効果が充分ではない、またゴムが破損した状態のままでの使用に至っているようです。

当該機種種は水側と気体側をゴム膜で隔離してはいるものの、気体はゴム膜を透過し減少することは避けられないため、これを機に管理されておられるブラダゴム内蔵型のタンク封入圧を測定下さることをお願い致します。

タンク封入圧測定法：

先ず、封入圧の測定は、主配管から仕切弁「閉」で遮断後、タンク排水弁「開」でブラダゴム内の水を排水したのち、タンク設置の圧力計で封入圧を読み取ります。

読み取った数値がタンク銘板刻印の封入圧を保持しているのか否か、おおよそ減少している状態であると思いますので、窒素ボンベもしくは乾燥空気（コンプレッサーホースヘドドライフィルターを設置して充填）を計器配管のエア抜き部より充填願います。

作業方法は大きめに記載しておりますが、取扱説明書や記載内容に対するご質問は弊社へご連絡ください。

また、コンプレッサーとドライフィルター及び接続ホース1式を組み合わせた「気体充填セット」をご用意しておりますのでお問合せください。

対象機器は蓄圧式（ブラダゴム内蔵型）タンクの型式は、「ARZV」・「TRZV」・「VSD」・「TVSD」・「VSE」（廃番品）、現行は容積によって従前の機種へ更新を推奨しています。

今後共、弊社製品を正しくご使用され、製品の機能維持によって機器類の損傷防止にご協力下さいます様お願い申し上げます。